9 月 16 日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（マタイの福音書　第 4 章 3 節）
荒野でイエスが試みにあわれたとき、御言葉を用いられたように、試みにあったときのための御言葉を暗唱して、自分も試みにあったらイエスのように御言葉を用いて試みに応えて打ち勝とうと思っていたことがあった。イスラエルが律法の御言葉をいただいていても、試みに勝てず救世主を必要としたように、私も御言葉を暗唱していても、大きな試みには勝てなかった。全ての試みに勝てるのは私の内におられるイエスだけである。普段から神に心を向け、御言葉に聞き、私の魂が内におられるイエスに盛んになっていただき、自分はますます小さくなって生きていれば、試みの時にイエスの御前に静まることができるようになっていき、イエスが試みに勝ってくださることを想う。

9 月 19 日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（ヨハネの福音書　第 4 章 14 節）
創世記では井戸のところで男女が出合い、その出会いが結婚につながっていく話が繰り返された。イエスは井戸のところでサマリアの女性と出会い、その出会いは異邦人も含めた教会とキリストの聖なる結婚につながっていく。女性には夫が 5 人あったが、今、女性と一緒に住んでいるのは夫ではないことをイエスはご存知であった。しかしイエスはくむ物を持っていた女性に「わたしに水を飲ませてください。」と頼みごとをされた。永遠のいのちの水を与えることができる方が、ユダヤ人たちから忌み嫌われたサマリア人の中でも夫ではない男性と一緒に住んでいる女性の、「水をくむ物を持っている」という良い点に注目して頼みごとをされた。私も人の悪いところを思うのではなく、良いところに注目して頼みごとをしたい、と想う。

9 月 24 日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（詩篇　第 119 編 18 節）
イスラエルに与えられていたみおしえのことを想う。みおしえである律法の行いの定めの面に目を留めていると、律法の心が見えなくなってくる。律法は神を敬って愛し、隣人を自分のように愛する心を教えてくれる。律法にある奇しいアガペと、私のようなものでも聖なるアガペで愛することができるように成

長させてくださる神の奇しい憐みに目を留めたい。どうか私たちが、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてくださいますように。

9 月 28 日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（ルカの福音書　第 6 章 12 節）
イエスが山で孤高に祈られた後、12 人の使徒を選ばれたことを想います。祈られた時に、父なる神から使徒に誰を選ぶべきか、示されたであろうこと、そのうちの 1 人は後でイエスを裏切るユダであったこと、神はユダが裏切ることを知っておられたこと、救世主を裏切るくらいならその人にとって生まれてこなかった方が良かったこと、私たちイエスの十字架で救われている者たちにとってユダの裏切りも神が救いのために用いられたことなので神に感謝すべきこと、を想います。

10 月 2 日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（ルカの福音書　第 12 章 27 節）
ゆりの花のことを考えてみます。努力して紡いだり、コロナ禍の中を満員電車に乗って働きに行ったり、夜遅くまでへとへとになって働いたりしていません。しかし神はゆりの花にソロモンの栄華に勝る美しさを与えてくださっている。今日は主日だが、締め切りの迫った仕事が多くあることが心に浮かびます。心配したりあせったりする必要はないことを想います。すべきことをすべき時にますます頑張ってできるように全てを備えてくださり、努力するべきときに努力する力も与えてくださる主がともにいてくださる。